

令和3年7月7日

県民の皆様へ

新型コロナワクチン接種後の副反応（痛みや発熱） に対する対応について

一般社団法人宮城県薬剤師会

新型コロナワクチン接種後に注射した部位の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱などの副反応が報告されています。

副反応は接種後1～2日以内に起こることが多く、症状の大部分は接種後数日以内に回復しますが、厚生労働省は、発熱などがあり必要な場合は、解熱鎮痛剤を服用するなどして様子を見ることを認めています。

ワクチン接種開始当初は発熱や痛みに対して、アセトアミノフェンを成分とする解熱鎮痛剤が紹介されましたが、ワクチン接種が進むにつれて、ドラッグストアや薬局において「アセトアミノフェンを成分とする市販薬が品薄になっている」と報告が寄せられたのを受け、厚生労働省はアセトアミノフェン以外の成分の市販薬も服用できることをホームページで明示しました。

県民の皆様におかれましては、ワクチン接種後の発熱や痛みに対して通常ご自身で服用されている解熱鎮痛剤をご使用いただけますことをご案内いたします。なお、アセトアミノフェンは、低年齢の方や妊娠中・授乳中の方でもご使用いただけますが、製品毎に対象年齢などが異なりますので、対象をご確認のうえ、ご使用をお願いいたします。

ワクチンを受けた後の発熱や痛みに対し、市販の解熱鎮痛薬で対応いただくことも考えられますが、特に下記のような場合は、主治医や薬剤師にご相談ください。

- ・他のお薬を内服している場合や、妊娠中、授乳中、ご高齢、胃・十二指腸潰瘍や腎機能低下など病気治療中の場合（飲める薬が限られていることがあります。）
- ・薬などによりアレルギー症状やぜんそくを起こしたことがある場合
- ・激しい痛みや高熱など、症状が重い場合や、症状が長く続いている場合